第五講　論理構造分析③「心情」「因果関係」

「文芸的文章」である「小説文」や「随筆文」には登場人物や筆者の心情を把握する問題があります。今回は心情把握問題の考え方を学びましょう。

心情把握問題

> 傍線部～とあるが、なぜか　or　心情を　説明せよ。

このような問題に対しても一定のアプローチをすることを心がけましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

心情把握問題解法

―「心情」の解答プロセス

①「文構造」を分析する。

・文法的構造
・論理的構造

↓

②「ポイント」を把握する。

・原因 → 客観的事態や主観的事情
・心情 → ⊕心情や⊖心情
・結果 → 行動や反応や発言

↓

③「解答の根拠」となる文と対応させる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅰ　単純な心情

原因　↓　心情　↓　結果

※　心情把握問題の基本形です。

※　この場合は心情が書いてないため、原因と結果から推測して心情を把握する問題になっていることが多いです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅱ　心情の変化

原因A
↓
心情A
↓
結果A
↓
原因B
↓
心情B
↓
結果B

※　心情把握問題で一番有名な問題です。

※　心情Aから心情Bへの変化、そして変化の原因を三点セットで捉える必要があります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅲ　結合原因の心情

原因A
＋
原因B
↓
心情
↓
結果

※　原因Ａだけ捉えて答えようとすると間違いになります。

※　原因Ｂは**「リード文」「会話文」「心中文」「過去シーン」**などにある場合が多いです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅳ　心情の交錯

原因A　→　心情A
　　　　　　＋
原因B　→　心情B
　　　　↓
　　　結果

※　一番分析が難しい問題です。

※　心情Aの原因が原因Bになっていたりと、原因の部分を入れ替えてしまうと間違いになります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「心情」を攻略せよ！

第五講　論理構造分析③　2002年前期第一問

次の文は、長く住んだ自分の家が取り壊される前日の「私」の姿を描いた小説の一節である。主人公の「私」は、戦後間もない時期にこの家を建て、会社を定年退職した現在も妻と二人でここに暮らしている。これを読んで、あとの問に答えよ。

毅夫(たけお)が初め私に提案したのは、今の家の建替えではなかった。彼は土地も家も売って、郊外へ移ろうと言ったのである。二番目の子供が生まれて、いかにも手狭になった社宅住まいを切上げたくなったのであろう。それには借金をして独力で建てるよりも、行くゆくはどのみち自分の物になる親の財産を活用した方が利口だと計算したのであろう。そうした考え方を私は咎(とが)めはしない。私だっていつかは彼の一家と同居する心積りはしていたのだから。(1)しかし、何事にも周到な彼が郊外分譲地のパンフレットを持ってやって来たとき、自分でも予期しない反撥(はんぱつ)心が湧いた。恐しく吹きっ曝(さら)しの所だな、と丘陵を開拓した造成地の写真を見て、私は言った。それに夢見ヶ丘とはよく恥かし気もなく付けたものだ。まあ今は殺風景だけど

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

も、と毅夫は逆らわなかった。家を建てて木を植えればすっかり変りますよ、木を育てるのは、お父さん、楽しみじゃないですか。木が育つまで俺が生きてるわけがない、とは流石(さすが)に私は言わなかった。毅夫は用意したメモを見ながら、その夢見ヶ丘なる土地に住む利点を次つぎに挙げた。取り分け彼が強調したのは陽当りであった。きっと冬でも陽灼(ひや)けするよ、お父さん。

ものの百米とは離れていない荒川の堤防の上に高速道路が構築されて以来、私の家の環境は変ってしまった。騒音こそさほどではないが、日照が失われたのが、私には応(こた)えた。冬場は二時を過ぎると、高速道路の影が家を覆うのである。そうなってからしばらく、私は、陽の翳(かげ)る時刻が近づくと庭へ出て、高速道路の向うへ意外な早さで陽が隠れて行くのを、いまいましくみつめていたものだ。陽の色が消えると、俄(にわ)かに周りに寒さが立ちこめるような気がする。(2)<u>私はわざと大きな嚔(くしゃみ)をして妻に笑われたりした</u>。私がそんな風だったのを、毅夫も当然知っていたであろう。

毅夫の説明は、そのほかすべてについてそつがなかった。陽の当らぬ下町の低湿地から陽光あふれる郊外の高台へ。自分たち一家の利害が基本にあるとは言え、彼が精一杯に誠意を尽そうとしている事は疑いようがなかった。いい息子だな、と私は皮肉でなく言った。お前は息子で苦労しな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「心情」を攻略せよ！

いで済んでるから羨(うらやま)しい、と同僚に言われた事が思い出された。確かに毅夫は出来がいいとは言えぬまでも、手間のかからぬ息子である。小学校から大学まで際立った成績は示さなかった代りに、中位以下に下りもしなかった。高校、大学の受験と就職試験に一度も失敗しなかったのは、彼が常に自分の能力で手の届く範囲を慎重に計量した結果である。お前みたいなのは一流にはなれんぞ、と酔ったまぎれに私が言ったとき、一流とか二流とかそんなこだわり方は時代遅れだ、と彼は答えた。私の自分の性格への秘かなこだわりを、彼は見抜いていたかも知れない。

　なるべく急いで検討してみて下さい、と毅夫はパンフレットや契約説明書を私の方へ押して寄越した。その必要はないよ、と私は押返した。この家を売る気はないからね。ここで曖昧(あいまい)な態度を示してはいけない、と私は思った。毅夫の指図は受けないという私の意志が、語気を通して伝わるように喋(しゃべ)ったつもりであった。

　それからは紆余曲折(うよきょくせつ)があった。妻が間に立った。妻は毅夫の話を私より先に聞いて、内心私の賛成を期待していたらしい。どうせあたしの方が後に遺(のこ)ってあの子の世話になって暮すのだから、あの子の気に入らない事はさせたくない、と言った。私は黙っていた。妻は毅夫の社宅へ泊りがけで出掛け、今の家を壊して、跡地に二世帯が階上階下に分れて住める家を

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

建てる案を、大凡(おおよそ)の費用分担まで含めて決めて来た。いいだろう、俺だって何もお前と二人きりでいたいわけじゃない、と私は言って、これでまた人に羨まれる種が増えた、と思った。気の優しい息子の家族と暮す安定した老後。まさにその通りには違いない。

　世間の眼から見れば、最初の毅夫の主張は筋の通った常識的なものだったろう。しかしそれに反対した私の言い分も、あながち無法だったとは思わない。そしてその中間を取って、現実的な案が立てられ、実行に移された。私も、これより良い解決策はなかったと思っている。私と息子と双方に対する妻の気遣いには、感謝している。(3)それなのに、自分の持ち物を無体に取上げられたような虚しさに加えて、憤りまで湧くのは何故だろう。

　今日、朝の間は出掛けるつもりはなかった。残る一日を古い家の中で落着いて過したい気持もあった。だがいつもと同じに朝食を済まし、二階の座敷に座って、知人の好意で定期的に廻してもらっている翻訳の仕事をぽつぽつやっているうちに、居たたまれなくなって来たのである。黒ずんで所どころが反り返った杉板の天井や、把手(とって)の廻りに手脂の染みが付いた北窓の硝子障子(ガラスしょうじ)、箪笥(たんす)を退けた痕(あと)がくっきりと青白く遺っている畳。今日限りで消えてしまうものが、私に向って群がり寄って来るような気がした。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission

「心情」を攻略せよ！

私がもう少し昔者であったなら、家霊に責められていると感じたであろう。私は追われるように階下へ降り、台所で片付物をしている妻に、飯を食いに銀座へ出ないか、と声をかけた。あたしは用があってそれ所じゃない、と素気ない返事が返って来た。それにこんな日は、あなた一人の方がいいんじゃないの、その代り、帰りにデパートで晩の物を見繕って買って来て下さい。こんな日、と妻は微かに笑いを含んで言った。私が一人で感傷に耽(ふけ)りたいのだとでも思ったのだろうか。まあ、それだって構わない。

（高井有一「半日の放浪」より）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）について、「私」はなぜ、「自分でも予期しない反撥心」を感じたのか、説明せよ。

問二　傍線部（2）の、「私」と「妻」の気持ちについて、それぞれ説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部（3）について、「私」の気持ちはどのようなものか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講

論理構造分析③　講義のまとめ

心情を捉えるためには［①］関係に注意して読む。

「心情」のフレームワーク

［②］

［③］

［④］

［⑤］

に注意して、読み、書く。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　論理構造分析③「心情」「因果関係」

2002年前期文理共通第一問　高井有一「半日の放浪」

要旨

　息子の毅夫は、最初今の家の建替えではなく、郊外への引越しを提案した。その周到な態度に、慎重であることを嫌う「私」は反撥する。そして、妻が息子と「私」の考えの中間を取って、建替えを提案する。「私」は妻や息子に感謝しつつも、自分の建てた家屋を失い、自分が中心でなくなったことに対して虚しさと憤りを感じている。そして居たたまれなくなり、家を出ようとした。

解答

問一

「私」は戦後間もない時期に建てて長年住んだ家に愛着があり、慎重であることを一流ではないと嫌う性格であったが、息子が周到な準備をして、郊外への移住を勧めたから。

解答ポイント

① 息子が周到な準備をして、郊外への移住を勧めた

② 「私」は戦後間もない時期に建てて長年住んだ家に愛着があり

③ 慎重であることを一流ではないと嫌う性格であった

問二

「私」は家の環境が変わり、日照が失われたことをいまいましく思っており、日照が失われたことで寒くなったと非難したい気持ちであり、「妻」は「私」の気持ちに共感していないため、私のわざとらしい嚔に対して、そんなに寒くはないだろうと滑稽に思う気持ちである。

解答ポイント

① a「私」は家の環境が変わり、日照が失われたことをいまいましく思っており
　b日照が失われたことで寒くなったと非難したい気持ちであり

② a「妻」は「私」の気持ちに共感していないため
　b私のわざとらしい嚔に対して、そんなに寒くはないだろうと滑稽に思う気持ち

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三

「私」は建替えを認め、妻の気遣いに感謝しているものの、家に対して愛着を抱いているため、その家屋が息子や妻の意向で取り壊されることに虚しさを感じており、また定年まで自分が一家の中心であったのに、妻が退職した自分と今後世話になる息子の意向を折衷したことに憤りを感じている。

解答ポイント

① 「私」は建替えを認め、妻の気遣いに感謝しているものの

② a家に対して愛着を抱いているため
　b その家屋が息子や妻の意向で取り壊されることに
　c 虚しさを感じており

③ a定年まで自分が一家の中心であったのに
　b 妻が退職した自分と今後世話になる息子の意向を折衷したことに
　c 憤りを感じている

解説

問一　心情把握問題

傍線部の「心情」の「原因」を把握する問題である。傍線部を分析すると①「何事にも周到な彼が郊外分譲地のパンフレットを持ってやって来たとき」が「原因」であることがわかる。そして、「自分でも予期しない反撥心が湧いた」が「心情」である。この「原因」と「心情」の間に「飛躍」があるため、その「飛躍」を埋める条件を本文中に求める。

まず、リード文に②「長く住んだ自分の家」「戦後間もない時期にこの家を建て」とあることから、「家に対する愛着」があるのではないかと考える。すると②「戦後間もない時期に建て、長く住んだ家に愛着がある」から、①「郊外分譲地に移住すること」に「反撥心が湧いた」という因果関係が成立する。

また、第三段落九文目に③「お前みたいなのは一流にはなれんぞ」という「私」の発言がある。「お前みたいなの」とは第三段落八文目にあるように「常に自分の能力で手の届く範囲を慎重に計量」する「慎重さ」である。このことから、「私」は「慎重」な息子の性格があまり好きではないことがわかる。すると、③「慎重」な息子の性格があまり好きでないから、①「何事にも周到な彼」に対して、「反撥心が湧いた」という因果関係が成立する。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　心情把握問題

　傍線部の「行動」や「反応」の元となる「心情」及びその「原因」を把握する問題である。傍線部を分析すると①「私」の「行動」として「わざと大きな嚏をして」とあり、②妻の「反応」として「笑う」ということがある。それぞれの「心情」と「原因」を本文中に求める。
　まず①「私」が「わざと大きな嚏」をしたのは第二段落二文目にあるように「日照が失われたのが、私には応えた」ことが「原因」である。そして、第二段落四文目にあるように「陽の翳る時刻が近づくと庭へ出て、高速道路の向うへ意外な早さで陽が隠れて行くのを、いまいましくみつめていた」とあり、「日照が失われた」ことに対して「いまいましい」という気持ちだったのである。だから、「陽の色が消えると」そのことに対する反撥として「わざと大きな嚏」をしたのである。
　次に②「妻」が「笑った」のは、「私」が「わざと大きな嚏」をしたことが「原因」である。「心情」は書いてないので、「原因」と「反応」から、「心情」を推測する。もし妻が「私」と同じ心情になっていたとしたら、「私」の「行動」に対して笑わないであろう。同じような行動をするか、同意するような反応を見せるはずである。ところが、妻は「笑って」いる。よって、妻は「私」に対して、心理的な距離を感じており、「そんなに寒くはないだろう」と思って、私の行動を「滑稽だ」と感じていることがわかる。
　以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

問三　心情把握問題

　傍線部の「心情」の「原因」を把握する問題である。傍線部を分析すると①「それなのに」という指示語、②「自分の持ち物を無体に取上げられたような虚しさ」という心情、③「憤り」という心情がある。それぞれの「心情」の「原因」を本文中に求める。
　まず①「それなのに」の指示内容であるが、第六段落三文目から五文目に「建替え」を「良い解決策」だとし、「妻の気遣いには、感謝している」とある。
　次に②「虚しさ」であるが、「自分の持ち物を無体に取上げられた」とあることから、リード文をもとに問一で考察した「戦後間もない時期に建て、長く住んだ愛着のある家」を「建替え」ることが「原因」であるとわかる。
　最後に③「憤り」である。第六段落三文目にある「その中間を取って、現実的な案が立てられ、実行に移された」ことが「原因」であるが、これだけでは「憤り」という「心情」は生じない。さらに必要な条件がある。「中間」の案は第五

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

段落に「妻が間に立った。妻は毅夫の話を私より先に聞いて、内心私の賛成を期待していたらしい。どうせあたしの方が後に遺ってあの子の世話になって暮すのだから、あの子の気に入らない事はさせたくない、と言った」とあり、妻の発案であることがわかる。そしてリード文に「会社を定年退職した」とある。以上から、妻は「どうせあたしの方が後に遺ってあの子の世話になって暮す」のだから、息子の意見も尊重するといって、「会社を定年退職した」「私」を優先することはしないと言っていることになる。これが原因で、定年まで一家を支えてきた「私」は「憤り」を感じているのである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。